

御和会だより 第24号(平成30年5月)

鯉のぼりが泳ぐ季節、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

新年早々日本列島は強い寒気に覆われ各地に記録的な大雪となり交通機関が大混乱となりました。

時代の節目に遭遇するとは思っていませんでしたが、昭和が幕を閉じたのは1989年1月7日小淵恵三官房長官が「平成」の新年号を発表したのをテレビで食い入るように見ました。

昭和の時代が「戦争」と切り離せないように平成を振り返れば決して平たんではなく、バブル崩壊やリーマン・ショック、阪神大震災、東日本大震災等が相次いだ。地下鉄サリンなど目を覆うような事件、事故も続発しました。

大震災が起きるたび、皇后さまとともに現地へ赴き、犠牲者を悼み、被害者に寄り添ってきた天皇陛下に多くの人々が励まされたことでしょう。気遣いの優しい言葉に涙ぐんだ人もいました。

退位日決定を機に国民と苦楽を共にする、その姿勢を胸に刻みたいと思います。

天皇陛下の退位日が2019年4月30日とすることが決まり、皇太子が5月1日に新天皇へ即位、改元、平成は31年までで終わることになりました。

1 御前崎分屯基地創立記念行事について

本年の御前崎分屯基地60周年記念行事は、8月3日に「うおとも会館」で祝賀会、4日は「みなと祭り会場」でブルーインパルス飛来と、その他のイベントを行う予定とのこと。

御和会定期総会は3日(金)に基地内で行い、その後祝賀会へ移動の予定。

2 基地成人式激励会：1月27日 対象者1名 会長出席

3 御和会会費入金について

御和会だよりに「郵便払込取扱」が添付されている方はお願いします。

4 退会者：山口 伸生氏 29年度をもって、長期にわたりご協力有難う御座いました。

5 地球深部探査船「ちきゅう」について学習

総トン数57000トン 全長210m 幅38m 高さ130m

完成は2005年7月29日 特徴は真ん中にそびえる青いやぐら、水深2500mの海底へ鋼製パイプを延ばし、さらに特殊なドリルで地殻を7000m掘り進む、激しい海流や波浪の中でも船の位置を正確に保持する機能も備え、採取した地層は地球や生命の起源探究や巨大地震と津波発生メカニズムの解明に実績を上げている。長いパイプを吊るすために、やぐらは、1250トンの重さに耐えられます。船の底には360度回転する6機のプロペラがあり、イカリが届かない海でも風や波に流されずに自動で船を同じ場所にとどめることができます。

ちきゅうは、これからも海で起こる巨大地震のしくみや、地下で生きている不思議な生き物を探るため、そして人類がまだ手にしたことの無い地球深部のマントルを調べるために活躍していきます。

遠州灘沖では、燃える氷として知られるメタンハイドレートの産出試験にも力を発揮しました。

実質的な母港は、清水港で深海の海底を掘って地球の様子を調べる日本が世界に誇る研究船です。



ヘリポート付の「ちきゅう」



富士山バックの「ちきゅう」

科学掘削 掘削地点
(2007～2019年)